

平成 23 年度 第 2 回 奈良県食育推進会議 議事概要

平成 23 年 10 月 27 日 (木) 午後 2 時～
奈良県奈良文化会館 2 階 集会室 A・B

<議題1> 第 2 期 奈良県食育推進計画の基本方針等について

資料1「奈良県食育推進計画の1期と2期(案)の基本方針の比較」(1ページ)に基づき、事務局説明。

<議題 2> 第 2 期 奈良県食育推進計画の施策および対策について

資料1に基づき事務局説明。

各委員による新計画推進のための施策、対策に関する意見

○目標・指標等について

- ・基本理念にある「健康長寿」は、一般的に年配の方に馴染みのあるスローガンであり、若い人が興味、関心をもてないのではないだろうか。若い世代を意識したキャッチコピーを考えてはどうか。
- ・大目標や中目標は子どもや若い方が興味を持てるように、キャッチコピーを考えてはどうか。
- ・大目標は「健康長寿」とし、これに対して、ライフステージ別に目標をつくり「健康長寿」につながるようにすればよいのではないか。
- ・「やせの割合」「野菜の摂取量」については具体的な数字を示した目標を掲げるべきではないか。

○食育の推進にあたって

- ・キャラクターを活用してはどうか。
- ・一つの大目標の下に様々な切り口で食育の取り組みができるとうよい。(ボトム・アップ型で)
- ・乳幼児期はマスコット、キャラクターを活用した普及啓発が子ども達の印象に残るため、せんとくんを活用してはどうか。(せんとくんによる食のパトロール)
- ・奈良県は専業主婦率が高く、子どもへの教育、家族の食事への関心が高い。このことを生かし、家庭の場を重視した食育を進めてはどうか。
- ・国の計画も第 2 期に入り、食育がトーンダウンしている。目玉となる施策、取り組みを示すことが求められる。
- ・大消費地である大阪に隣接している地の利を生かし、奈良の情報を大阪に向けて発信してはどうか。大阪への就業者も多いので、大阪にも情報を発信していく。
- ・イベントなどの含め、継続的な取り組みをしていくことが重要ではないか。

○食育の取り組みのアイデア（取り組んでいること）

(子ども・小学校等での食育)

- ・保育園では菜園活動を重視している。農産物の世話(栽培)→調理→食べるといった一連の体験を通じ、野菜嫌いを克服する子どもは多い。また、子どもだけでなく、保護者への食育にも取り組んでおり、簡単にできるバランスの摂れた朝食の献立をはじめ、身近な素材で作れる料理について情報提供をしている。

- ・学校での食育は食農教育に関心が高い。地域の食材の活用方法など、地域と学校の連携を重視している。
- ・学校間の連携による（小学校 - 中学校 - 高校 - 大学）食育の取り組みを推進してはどうか。（他府県等でも取り組みがない）
- ・高校生が小中学生に「食」について教えるなど、横の連携を活用した取り組みができるとよい。（農業高校との連携など）
- ・佐保短期大学と連携し、学生が子ども達に農業体験等、食について教える取り組みを行っている。
- ・斑鳩町では、子どもがお弁当を作る料理教室を開催している。
- ・公民館事業を活用し、子ども達が自分でお弁当を作れるようになる料理教室の開催を検討している。

（学校給食）

- ・学校給食では、放射能問題の関係もあり保護者から安全性に関する問い合わせが増加している。
- ・学校給食調理場の災害時における役割、機能が見直されている。（避難所として、調理場施設があることは有効）
- ・学校給食における県内産作物の利用を推進するには量の確保に課題がある。
- ・11 県で連携した各県産農産物の消費拡大の取り組み（学校給食の連携）を進めており、福井県から奈良県産の食材の注文を受けている（加工品、いちご、くずうどんなど）

（地産地消の推進）

- ・地産地消については、生産と流通の連携が十分に図れていない。生産者側は作った農産物の販路に苦勞する一方で、消費者はどこにいけば手に入るのか情報が得られていないのが現状。

（その他）

- ・広報、奈良の県民だよりの活用、奈良テレビなどマスメディアとの連携するなど普及啓発を強化してはどうか。

○その他

- ・カタカナ英語の使用はできるだけ避けるべき（コンテンツ、ポータルサイトなど）